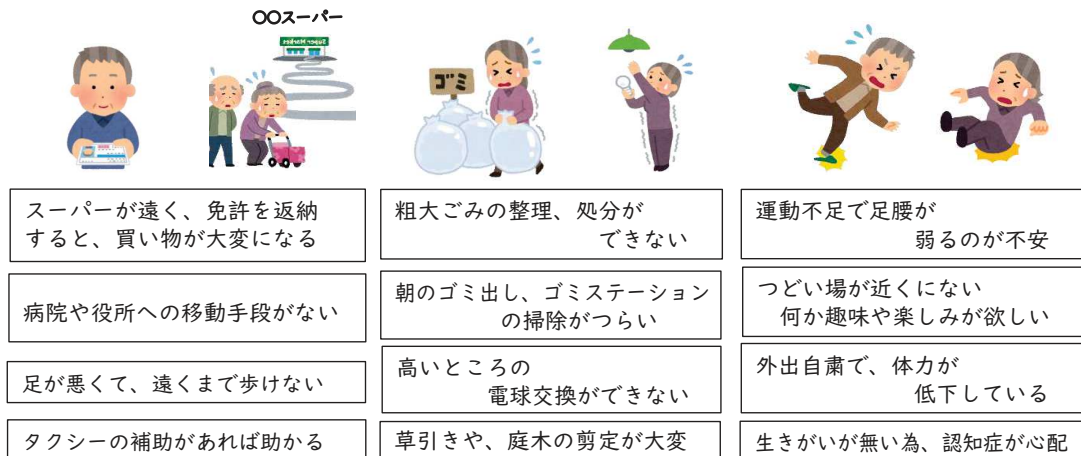


# アンケートから見えてきたこと



<b>1. 移動支援</b> ・買い物支援(送迎、移動販売等) ・病院、役所などへの移動支援	<b>2. 生活支援</b> ・家事的支援(掃除、洗濯等) ・軽作業的支援(粗大ごみ、庭木剪定、修繕等)	<b>3. 介護予防支援</b> ・つどい場による支援 ・介護予防情報発信支援 (家でできる介護予防活動)
--	--	--

アンケート回答から、上記3つの支援の必要性が見えてきました。  
 ささえあい協議会では、「**介護予防支援**」から取り組みを進めていきます。

介護予防支援

つどい場による  
介護予防支援

情報発信のできる  
介護予防支援

- ◆体力維持、向上のためのつどい場づくり。
- ◆高齢者が経験や資格を活かし、輝ける場や生きがいを見つけられる場づくり。
- ◆高齢者が安心して暮らせるための、お役立ち情報発信。

**アンケートへのご協力ありがとうございました。**  
 ささえあい協議会では、アンケート結果をもとに、今後の取り組みについて協議をしていきます。  
 アンケート調査報告の全文は、平岡公民館、総合文化センターで閲覧できます。

報告者：平岡公民館エリアささえあい協議会  
 事務局：加古川市社会福祉協議会 地域福祉推進係 生活支援コーディネーター 粥川  
 連絡先：079-424-4318 (かゆかわ)

# 平岡公民館エリアささえあい協議会 アンケート調査 報告書

## ささえあい協議会ってな～に？

高齢社会の進行に伴い、高齢夫婦・独り暮らし世帯が増えてきています。  
 また高齢者の増加と共に介護サービスの需要が高まり、今後、福祉サービス不足が起きていることが予想されています。  
 そんな中、平成27年の介護保険法改正により、身近な地域の住民同士で、お互いにささえあうしくみづくりをすすめる「生活支援体制整備事業」が始まり、加古川市では概ね中学校区域での「**ささえあい協議会**」がスタートしました。  
 平岡公民館エリアささえあい協議会は、令和元年度から始まり、地縁組織をはじめ、地域の団体(以下参照)がメンバーとなり、地域の福祉課題解決に向けて、「ささえあいのしくみづくり」に取り組んでいます。

平岡公民館エリアささえあい協議会 参画団体	
◆平岡町東地区町内会連合会	◆社会福祉法人 グランはりま
◆平岡町北地区町内会連合会	◆社会福祉法人 みどり園
◆平岡民生児童委員協議会	◆社会福祉法人 陽だまりの家
◆学校法人 兵庫大学	◆生活協同組合 コープこうべ
◆兵庫県立 農業高等学校	◆地域包括支援センターひらおか
◆兵庫県生きがい創造協会 いなみ野学園	◆加古川市福祉部 高齢者・地域福祉課
◆すえひろ電器	◆加古川市社会福祉協議会

## アンケート調査について

平岡公民館エリアささえあい協議会では、エリアに暮らす70歳以上の方を対象に、「日常生活の中で何に困って、どんな支援を必要としているか」、「高齢者が生きがいを持つために何が必要なのか」等を調査するため、住民アンケートを実施しました。

その結果を報告いたします。  
 <アンケート調査の概要>  
 ◆調査地域：平岡公民館エリアの一部地域(サンプリング調査の為)  
 東地区：土山町内会、城の宮町内会、東山町内会  
 北地区：高畑北町内会、東加古川住宅町内会  
 ◆調査期間：令和2年10月初旬～令和2年11月下旬

配布対象者数	有効回収数	回収率
1,226人	872人	71.1%



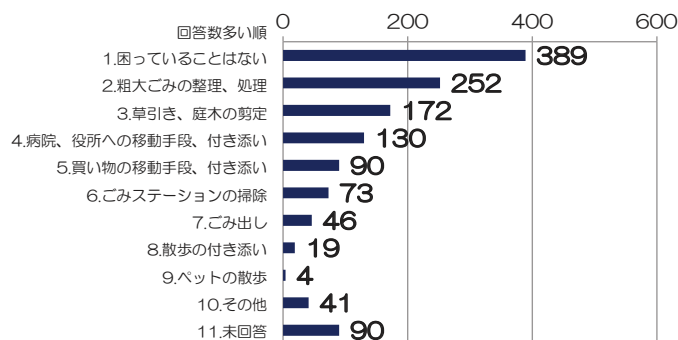
# アンケート集計 結果のご報告

## 基本項目

男 女 比：男性 424 人 48.6%、女性 441 人 50.6%、未回答 7 人 0.8%です。  
 年 齢 比：70 歳代 631 人 72.4%、80 歳代 210 人 24.1%、90 歳代 26 人 3.0%、未回答 5 人 0.5%です。  
 家族構成：夫婦のみの世帯 470 人 53.9%、子どもと同居 209 人 24.0%、独り暮らし 112 人 12.8%、  
 子どもの家族と同居 45 人 5.2%、その他同居 29 人 3.3%、未回答 7 人 0.8%です。

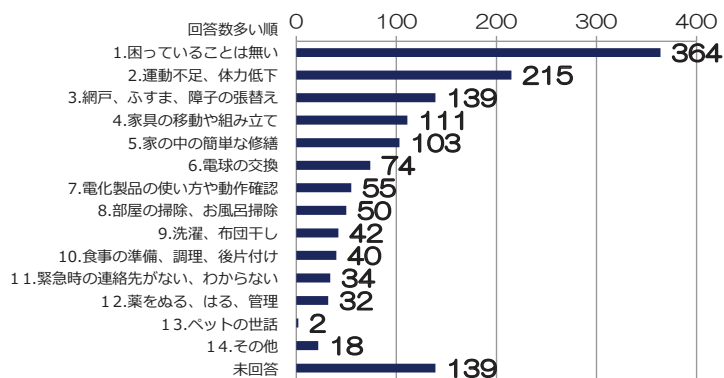
## 困っていること（家の外） 複数回答項目

一番多い（困っていることはないを除く）『粗大ごみの整理、処理』については、自由記述にも困りごととして多くの記述がありました。『庭木の剪定』は、専門職でないとできない、などの記述が多くありました。4位、5位の『移動手段』での困りごとは、合計すると220人の回答となり、多くの人が困りごととしてあげています。



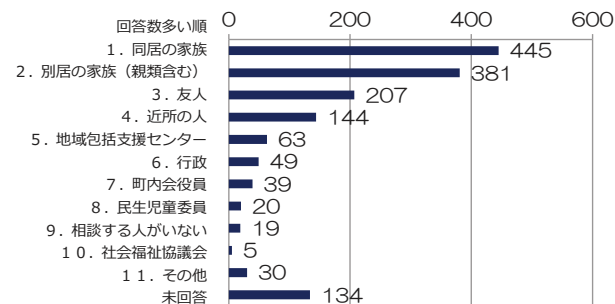
## 困っていること（家の中） 複数回答項目

一番多い（困っていることはないを除く）回答は『運動不足、体力低下』です。自由記述にも、体力低下による体調変化の不安について多くの記述がありました。3位～7位については「体力や専門知識が必要」など、健康であっても自分ではできないことがあげられています。8位～13位の日常生活の中での細々とした困りごとも、合計すると200人が困りごととしてあげています。



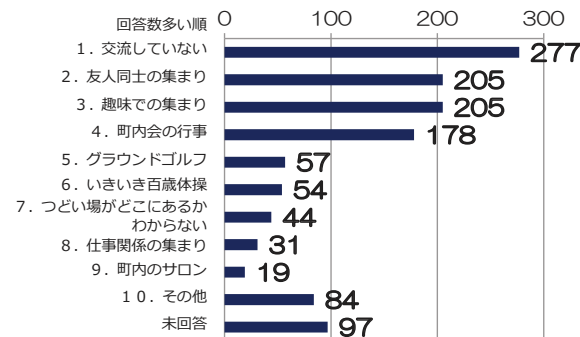
## 困りごとの相談相手 複数回答項目

相談する相手は家族や親類、友人が多くなっています。「近所の人」の回答が144人あり、近所の交流が残っていることが伺えます。5位以下は専門職につながる相談の窓口であり、相談件数は少なくなっています。「相談する人がいない」と回答した人が19人ありました。



## 交流する機会 複数回答項目

交流していないと回答した人が277人と最も多く、「つどい場がどこにあるかわからない」と回答した人も44人いました。一方、友人や趣味での交流が上位であることから、共通の話題や趣味を持つ人同士が集まっている傾向があります。



## 自由記述について

延べ 660 人に及び記述があり、6つの項目に層別しました。

【提案】「清掃ハイキング」「ゴミ出しサポート」「資格を活かして役に立ちたい、活躍の場を作ってほしい」などの提案がありました。

【移動支援】「困っていること（家の外）」で多数の回答があった移動支援について、自由記述でも「かこバス」の要望などの記述が多くありました。

【アンケートへのご意見】アンケート自体へのご意見、結果を活かして欲しいといった要望などの記述がありました。

【加古川市へのご意見】他市事例による提案、空き家対策、各種サービスの向上、助成制度の充実などの要望の記述がありました。

【町内会へのご意見】役員制について、ゴミ当番についてのご意見がありました。

【その他】高齢化に伴う、健康不安や日常生活の中でできなくなることが多くなることへの不安、の記述がありました。